

## 環境首都札幌推進協議会第7回会議【議事概要】

日時：平成22年11月10日(水) 15:30～16:30

場所：札幌市下水道科学館 1階 レクチャールーム

次第

- 1 開会
- 2 議題
  - (1) 第2回札幌市環境関連施設見学会について
  - (2) 委員の取組発表
  - (3) 活動報告書の作成について
  - (4) その他
- 3 閉会

---

### 1 開会

- ・小野環境計画課長より開会宣言
- ・委員17名中、9名の出席を確認
- ・資料の確認

### 2 議題

#### (1) 第2回札幌市環境関連施設見学会について

会議前に開催した、創成川水再生プラザ及び下水道科学館の見学会について、一人ずつ感想をいただいた。

井下委員 私は、友人と地元の下水処理場を見学したことがあって、そこと何か違うのかなと思いきや、余り違わず、全国的にこういう感じなのだなということがわかりました。微生物を使うというところが原始的だなというか、それが逆に新鮮でした。

大野委員 入館数を見ますと、子どもさんの数の方が多いということです。多分、私も小学校の時にこういう施設を見学したのではないかと思うのですが、全く忘れていて、新鮮な気持ちで、すごいなと思いながら聞いていました。

久保田委員 汚泥の処理に非常に興味があります。その一つがコンポストという話だったので、そのコンポストが平成25年ぐらいでやめてしまうということで、非常に残念な思いです。人間が生きている以上はずっとやっていかなければならない話なのに、その後ろの方の処理が社会的に仕組みとして成り立たなければ、また問題を起こすのかなという気がしました。何が問題で、どういうふうになればよくなっていくのかということについて、もう少し情報があればよかったなと思いました。

もう一つは、キャラクターが4種類あって、非常に人気が高く、売れるのですよという話を聞きました。実は今、ソーシャルビジネス化というキーワードのもとで、環境社会を

つくっていくために、第三のビジネス、事業体が注目されているところですが、そういうことを進めるための準備はここからやれるのかなという印象を受けました。

佐々木委員 今回、見学させてもらいまして、下水の処理の管理は合流式と分流式があるのだということで、大人にも子どもにもわかりやすい形で説明を受けたことは大変印象に残りました。

それから、下水のマンホールはどうして丸いのかわかりますかという話ですね。丸いものはそれぞれの対角線の長さが同じだから絶対落ちたりしない。逆に、四角とか長方形というのはそれぞれ長さが違うので、中にはまったり、外れたりした時に事故のもとになる。ですから、丸い形が一番いいんですよという話を聞きまして、感心いたしました。

宮本（尚）委員 札幌ぐらい雪が降る大都市は他に無いという話を聞いています。下水道施設が冬季に融雪のシステムに使用されているということが一番興味深かったです。

曲戸委員 この施設は、たしか5年ぐらい前に小学生の子どもと一緒に来たことがありまして、その時の印象は、物すごく臭いがきつかったのです。今日は全然そんな感じがしなかったので、雨が降るとこんなに違うのかと思いました。

あと、ちょっと気になったのは、電気代がすごいですね。（1日で）50万円ですか。その辺はちょっとエコできればいいのかな、しかし、仕方が無いのかなと感じています。

新保委員 BODが有機物に対する処理だということで、有機物以外の化学物質はどういうふうになっているのかという素朴な疑問がありました。

あと、自宅の台所でも、大きなものはネット等で止めているのですが、それと同じように、下水についても途中でネットを設けて、そこに付着させているのですが、そのごみ処理はすごく大変な作業なのではないかと思ったのです。市民に、大変な処理をしてお金もかかることをちゃんと知っていただくためには、そういうこともオープンにして、大変なのだということを率直に教えていただくと、もっとありがたいと思いました。

あと、私たちは恵まれた街に住んでいるなと思いました。世界の中には下水処理をしていない国がたくさんあるのではないかと思うのです。ですから、健康や生活を守っていただいているということは、すごくありがたいと感じました。

小林会長 実は、ここも全部オープンで曝気槽<sup>はっきそう</sup>も見えていたのですが、落ちることの危険や、臭いとともに、飛沫でウイルスが飛ぶとか、いろいろな問題のために全部カバーをしてしまったので、自分たちが出したものがどんなもので、どうやってきれいになるかという様子が見えなくなったのです。見えないと、かえって無責任な市民がどんどん増えてくるので、今、ドイツでは、下水道のオープン化をやっています。水路で見せて、これは大変だと思わせるという流れもあります。

それから、下水道というのは、パイプラインは全部地下に埋まっているので、地上で見えるものは処理場だけなのです。投資金額の9割以上がパイプラインに入るということです。ですから、こういう形で皆さんに認識してもらわなければならないということで、下水道科学館を14年前につくったのです。

ここは無料で年中開けているのに、委員の先生方でもなかなか来ておられないということですので、やはり、これからは積極的に認識を持っているいろいろなものを見ていただけたらと思います。

あと、先ほどの化学物質云々というのは、下水が生で川に入ると、川の中で分解する時に酸素を全部消費してしまうので無酸素状態になります。それで、アンモニアとかメタンが出て魚が全部死ぬということを解決しようということで、今に至ったのが、今日見ていただいたような下水処理場です。溶解物に関しては酸化で分解させるのと、吸着ですね。上流でいろいろな化学薬品が流されますが、それはオゾンで分解しているわけです。

あとは、流域内に住んでいる人はいろいろな薬を飲んでいますが、全量を吸収されていないので小便で出るわけです。それが川の中に出た分が非常に問題になっているところです。そういう浄水場でも下水処理場でも除去できないものを僕ら人間社会ではたくさん使っているということです。それで、便所でばっと流して一件落着で関心を持たないという問題点は、琵琶湖の下流部等で、微量人工汚染物質についてのフォローをいろいろやっています。

太田副会長 私も、20年以上前に一回来まして、その時はオープンですから、非常に臭いもしましたし、目の前で見えていて、なるほどなと思ったのですが、今日は、きれいな処理場を見せていただいて、先ほど皆さんがおっしゃったように、臭いもしないし、きちんとつくってあるなという感じがしました。

札幌市の下水道は、日本でもトップクラスの普及率を誇ります。日本全国のいろいろな都市でどんどん下水道が配備しているわけですが、50年で下水道の管を交換しなければならないということで、莫大なお金がかかるわけです。ですから、これからどのようにやっていくのかなど。当面いいということと、ロングレンジで見て将来のためにどうしなければならないかということもちゃんと考えておかなければまずいだろうと思います。

小林会長 食事の洋風化に伴って有機物と油の非常に多い下水が出るようになってしまったわけです。それが、あちこちでこびりついたり、沈殿したものが腐敗をして、硫化水素その他のガスが出てきて、臭い街になっていくわけです。そうならないようにするために、下水管の掃除とかリプレースその他をどこの都市もやらなければならないのです。やはり、30年とか40年ごとにそれを全部入れかえていかなければならず、その費用は住民が払わなければならないわけです。そういうことも認識していただいて、パイプラインや処理場をリプレースしなければならないということで大変お金がかかるということに驚いていただけたらと思います。

## (2) 委員の取組発表(資料1)

宮本(尚)委員 私どもの団体には、環境団体のネットワークと中間支援という二つの役割があります。ネットワークには、北海道内の環境活動をしているNPO等の団体と、支援をしてくださっている団体・企業が入っています。個人の方も参加しています。目指

すものは、人、物、資金、情報、ノウハウ、専門性、システムというものを交流の中でお互いに出し合って、北海道の環境活動を活性化、効率化し、クオリティーの高い活動、成果を生み出していこうということで、そのための事務局というか、拠点としてつくられています。初めは市民が中心のネットワークでしたが、最近は、行政、企業、大学等とパートナーシップが広がりつつあって、基盤が広がってきたなと思っています。

北海道のめぐみ豊かな自然環境を子どもたちの未来へ引き継ぐ、そのためのネットワークと基盤強化のための支援、それから、パートナーシップをつくって北海道の環境保全に寄与することを目的としております。

歩みとしては、2002年11月設立です。任意団体でスタートして、2006年に法人化が決定し、2007年に法人になりました。

会員数ですが、順調に上がってきたのですが、なぜ今年下がったかという、行政の仕事のサポートをしていたNPOが、業務縮小とか、事務局を閉じたりというような例が出てきています。そういうことは市民団体にも影響が出てきています。

特徴として、全道であるということと、自然環境に関する団体が非常に多いです。事務局は札幌にあり、日ごろの交流の中から団体が入ってくれるので、半分ぐらいは札幌の団体です。これはきたネットのいいところだと思うのは、会員同士のもめごとや悪口がうちの事務局にほとんど入ってきません。団体が集まると、大体、そういうことがあるのですが、うちはない。それは、うちはお金を払って入る団体だからだと思っています。意思を持って他の団体とネットワークを組もうという団体が入ってくれているので、会合や交流会でも非常に友好的で、事務局としては非常に恵まれた環境で仕事をさせてもらっていると思っています。

どの団体も、高齢化、人がいない、資金は助成金等を使っているのが不安定、あるいは、IT関係の情報発信力の問題等の悩みを抱えていて、その部分で中間支援としてうちが相談に乗ることが多いです。

最近の活動から、いくつか、札幌市に関わりのあるNEWSをピックアップしてきました。円山動物園との共催のフォーラム開催とか、ラブアースの森というものを茨戸でやっています。昨日さっぽろ環境賞をいただいたラブアース・クリーンアップin北海道というのがあります。あとは、もう終わった事業ですけれども、今年はさっぽろいきものみつけという事業をやりました、これは、環境省の生物多様性センターがやっているいきものみつけという事業を、自然活動をやっている会員団体に一緒にやらないか声をかけましたら、6団体と一緒にやると言ってくれまして、円山動物園にも声をかけて、7団体で札幌市内のいろいろな所で自然観察会をやりました。これは、環境省から謝金も出たので、うちからネットワークでいつもお世話になっている団体にちょっとお礼もできて、来年これで会費払ってね、というコミュニケーションもできました。

それから、10月、市民活動助成セミナーという助成金を出している団体を集めて講座をやったのですが、この内容が今、ユーストリームと言うインターネットの動画配

信のアーカイブスに入っています。きたネットのホームページのトップから見られますのでぜひ見てください。札幌市のさぼーとほっと基金の説明もあります。

ラブアース・クリーンアップ in 北海道が、昨日さっぽろ環境賞優秀賞をいただいた、うちの自主事業です。今は7年目で、最初は何千人から初めて、今年の最終集計中ですが、全道2,500団体企業、約5万人が参加しているもので、全道でやっているごみ拾い活動を登録してもらって、それを集約して、こんなにやっているのだということをアピールすることで、周りの人に環境について考えるきっかけを持ってもらうということです。あるいは、ごみ拾いをした方というのは、その時に、これから二度とごみを捨てないぞとか、汚いとか、いろいろなことを考えてくれるので、それをきっかけに環境のことを考えるステップにしてもらいたいと思っています。2006年から札幌市の児童会館がほとんど参加してくれていまして、今年も五千何百人です。子どもたちが参加してくれているので、何か次の学びに繋がたいと思って、今年は、円山動物園に協力していただいて、北海道の野生動物のカードを作って、子どもたちがごみ拾いをすると参加証をあげているので、その参加証を円山動物園のカウンターに持ってきてくれたら動物カードをあげるということをやってみました。数百人の子どもたちが来てくれたようです。結構喜んでもらってくれたということです。

当会の課題ですが、一番は人手の問題です。事業が大きくなると、誰がそれをやっていくのか。また資金面では、助成金が来年も取れるかが直前までわからない。毎年毎年、次年度は継続できるのか、悩みながらの事業です。また、ごみ拾いから次のアクションへということで、ラブアースの森づくりという活動があります。これは、ごみ拾いに参加して下さった人に森づくりをやりませんかと呼びかけて、一緒に少しずつやっています。これも本当は全道でやりたいのですが、人手と資金が無いので2カ所ぐらいしかできていません。今年は札幌と白老の2カ所で植樹・育樹をやりました。今、企業がすごく森づくりに関心を持っていて参加希望も多いのですが、規模を拡大するにはそれなりの人手・資金が必要なので、企業の方を大人数で受け入れるのは難しく、企業参加は協賛金をいただいた所だけ、とお断りをしている状況です。企業は一般参加者としてではなく、協働、例えば、バスを一緒に出してもらって、そこに市民を乗せてくれるとか、そういう協力をお願いしたいです。私どもは市民と団体と企業をつないでいきたいと思っているので、ともに持続可能な参画を考えていければありがたいと思っています。

今、取り組んでいることとして、環境省の設置したEPO北海道と北海道設置の北海道環境財団、札幌市の環境プラザと民設のきたネットの4団体で、環境中間支援会議・北海道というものを2年越しでやっています。

ここの会議は何のためにやっているかということ、設置団体が違うだけで何が違うのかわからない中間支援組織がなぜ札幌にこんなにいっぱいあるのか。それは、ユーザーから見たら本当に何をやっているのかわからない。どこを利用していいのかもわからないし、何が得意なのかもわからない、ただ、同じようなことを同じように重複してやってむだなだ

けではないかという意見がずっとあったのです。この4団体は、これは問題だなという意識は持っていたのです。それぞれのスタッフが、業務の中でいろいろなところで顔を合わせていて、日ごろから情報交流はすごくあったものですから、それで、縦割りをやめないかと、もしかしたらやれるかもということで、4団体で会議を持ちたいと言いましたら、不思議と、どこもいいですよということになって、2年前スタートすることができたのです。この会議には、設置団体の環境省、北海道、札幌市も、会議やワークショップに出てきてくれたり、一緒に取り組んでくれています。

会議というのは、何をやっているかわからないのですね。私どもは、会議の成果を絶対形にしよう、見える化しようということで、まず1年目は協働でインターネット上に環境イベントカレンダーを作りました。それがE d a y H O K K A I D Oです。それが1年目の成果です。

縦割りだと、4施設で例えばホームページをつくるとしても、そのネットを借りるお金など、どこから出せばいいのか、こういう横のつながりのための資金を出す仕組みがないのですね。そこで民間の助成金をもらおうと考えました。実は、その前から4者共催で助成金説明会をやっていたということもあって、パナソニックから課題解決を主旨とした助成金をもらってみようということになりました。その年、初めてコンソーシアム助成というものが設立されたので応募しましたら全国第1号でいただくことができました。

きたネットの目的の一つは、北海道の環境、環境活動の素晴らしさを道民一人ひとりが再認識して、自分たちは素晴らしい宝物を持っていると知ってほしいのです。環境活動しているリーダー格の人は、実は半分ぐらい、本州から北海道が好きで来た人なのですね。生まれたときから豊かさにかこまれてくらししていると、その素晴らしさが案外わからないものです。そこを伝えるアプローチをしていきたいということです。

もう一つは、企業、行政、N P O、市民の本当のパートナーシップとは何だろうということです。さきほど市民団体の高齢化や助成金頼りの運営の不安定さについて少しお話ししましたが、市民活動を支えていくということはどういうことだろうか。きたネット自身も非常に苦しく、持続不可能のN P Oと呼ばれています。そこをどうやって支えていくのかということ、ここにいる皆さんにも相談に乗ってもらえればと思っています。

持続可能な社会の実現を目指し、さらに進化していくための情報やノウハウを集め整理して発信していきたいという思いで、今、4団体で頑張っていますし、このホームページ等が完成したら、全道の間支援組織にも協力してもらって、全道規模の情報をトータルに集めていきたいと考えています。

井下委員 環境中間支援会議・北海道というのは、今初めて聞いて、本当に素晴らしいと思いました。これは、呼びかけはきたネットなのですか。

宮本(尚)委員 最初の呼びかけは環境省E P O北海道から出してもらいました。

井下委員 たたき台を作ったり、こういうふうに進めたいという提案をするのは、全部の団体なのか、実際にどんな感じでこの会議が進んでいるのですか。

宮本（尚）委員 最初に、どうやって進めていこうかという準備会議をやった中で、第三者が入った方がいいということになって、外部のファシリテーターの人をお願いして会議やワークショップをやっています。2010年につきましては、パナソニックからのコンソーシアム助成金が、行政関係ではなくて、NPOを幹事団体とすることという決まりがあるので、きたネットが幹事団体になって、会議資料を作ったり、議事録を作ったりということはうちが主にやっていますが、課題の提出はどこかということはほとんど無く、ワークショップの中で出た意見をもとに、次はこれでという形でやっています。

### (3) 活動報告書の作成について（資料2）

環境計画課計画係長の森より、活動報告書の作成について説明を行った。

小林会長 他の会議では、起草委員を決めて、どういうものを盛り込むかみんなで議論して、起草委員が書いて、それをたたき台にしてみんなでもむというやり方をしますが、この協議会については、今ご説明いただいたようなやり方を事務局では考えております。本当は起草委員が出てもむというのが一番いいのですけれども、当たった人は大変なのです。それで、たたき台を事務局で作って頂き、それをメールその他で皆さんにお目通しいただいて、修正していく予定です。

太田副会長 ボリュームはどのぐらいを考えておられるのですか。

事務局（笠原） 大体30ページぐらいになるかと思います。

太田副会長 30ページなら、見るのは可能ですね。

小林会長 本協議会では、皆さんが取り組んでおられる内容のご披露をお願いしたわけですが、これは非常に濃い中身であって、今まで気づかなかったことをいろいろな方がなさっているのは素晴らしいと思いました。それで、それぞれの方がご発表された部分の趣旨を取り違えているとか、ウエートの置き方が違うというようなことがないか、最小限ご自分ご披露された中身については目を通していただいて、誤解のないようにしたいと思います。

## 3 閉会